



花の咲く時期は7月



茎に紫色の斑紋がある。

## 毒 ドクニンジン

ヨーロッパ原産だが、帰化して野生化している二年草。乾燥地に生え、高さは1.5m以上になり、折ると特有の不快なおいがある。

ニンジンの葉に似ており、有毒であることからこの名がついた。

札幌市内等にも自生しているので、注意が必要である。

### 特徴

- 茎には紫色の斑紋がある。
- 特有のにおいを有する。

有毒部位：全草

有毒成分：コニイン

中毒症状：中枢神経興奮、運動麻痺、呼吸困難→死亡

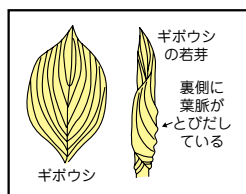
※平成9年4月に札幌市内でドクニンジン（毒）とシャクの誤食による食中毒が2件発生した。



## 食 ギボウシ

日当たりの良い湿地に群生する多年草。

ウルイの名で親しまれている。バイケイソウ（毒）はかじると苦味があるが、ギボウシには苦味がない。

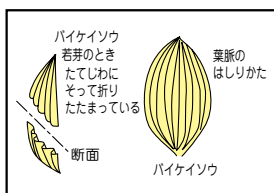


## 特徴

- 葉は根元から出て長い葉柄があり、茎に直接葉はつかない。
- 葉の先はとがり、太い葉脈が中央にあり、そこからふちに向かって脈が分かれている。
- 葉脈は、葉の裏面にくっきりとび出して見える。



## 毒 バイケイソウ



湿地に群生する多年草。芽出し時期、ギボウシの若芽やギョウジャニンニクに似ており、誤食した食中毒事例がある。

### 特徴

- 葉は茎を囲むようにつき、柄はなく、葉脈は葉の基部から先に向かって伸びる。
- 葉は大きく、茎に互い違いについて先端はとがる。

有毒部位：全草、特に根

有毒成分：ペラトラミン、ジェルビン

中毒症状：口のしびれ、血圧低下、めまい、心不全→死亡

※平成28年4月にバイケイソウ（毒）とギョウジャニンニクの誤食による食中毒が下川町で発生した。



葉は丸みがあり、卵形で鋸葉はあらい。  
20cm ~ 50cm になる多年草。



貧弱なひげ状根

## 食 セリ

春の七草の筆頭で水辺、湿地に生える。  
昔から人気の高い山菜で、香りとさわやかな味、  
歯ざわりを楽しむ。

## 春の七草

春の七草は、せり芹、なすな薺、ごぎょう御形、はこべら繁縷、ほとけのざ仏座、  
すずな松、すずしろ清白の7種を指し、正月7日に七草  
粥として食べる。



根は太くて大きい  
竹状の地下茎（節  
がある）。



葉は細く、先が鋭くとがり、ふちには鋭い鋸葉  
がある。  
60cm～100cmになる大型の多年草。

## 毒 ドクゼリ

有毒でセリに似ていることからこの名がついた。

セリと同じような水辺などに生える。

特に春先の若葉がセリと似ているため、注意が必要  
である。

若葉をセリと誤食したり、根をワサビと誤食した食  
中毒事例がある。

有毒部位：全草

有毒成分：シクトキシン

中毒症状：

血圧上昇、おう吐、けいれん、  
呼吸麻痺→死亡





葉は単葉で長楕円形、先がとがり、有柄。

## 食 モロヘイヤ

草丈2メートルに達し、葉は単葉で互生し、長楕円形で先端がとがる。

葉のつけ根部分左右に1本ずつ角状突起がある。

エジプトなど中近東地域で食される。

種や茎には毒があることも知られている。

### 北海道における有毒植物による中毒事例

(令和2年～令和6年)

発生年月日	発生場所	喫食者数	患者数	原因植物	備考	
令和2年 5月	小樽市	1	1	イヌサフラン		
〃	真狩村	不明	1	スイセン		
〃	松前町	4	1	スイセン	ニラと誤食	
令和3年 5月	小樽市	1	1(1)	イヌサフラン	ギョウジャニンニクと誤食	
令和4年 4月	小樽市	2	2	トリカブト(推定)	ジャクと誤食	
令和4年 5月	岩見沢市	3	3	スイセン		
〃	旭川市	3	3	スイセン	ニラと誤食	
〃	旭川市	不明	1(1)	イヌサフラン		
令和5年 5月	苫前町	1	1	イヌサフラン	ギョウジャニンニクと誤食	
〃	北見市	1	1	イヌサフラン	ギョウジャニンニクと誤食	
令和6年 4月	札幌市	2	2(2)	イヌサフラン(推定)	ギョウジャニンニクと誤食	
〃	6月	名寄市	3	3	スイセン(推定)	ニラと誤食
〃	8月	八雲町	3	3	ユウガオ	高クルビタジン含有のユウガオを喫食したため

( )内は死者数



アメリカチョウセンアサガオ



ヨウシュチョウセンアサガオ

## 毒 チョウセンアサガオ

草丈は1.5m程度に達し、夏には、葉のつけ根に淡紫色から白色の花をつける。

果実は球形から楕円形で長いトゲが密生し、熟すると黒色から茶色の種子をたくさんもつ。

葉はモロヘイヤに、根はゴボウに、種子はゴマに形状が似ているので要注意。



チョウセンアサガオの種



よ:チョウセンアサガオの根

**有毒部位：**全草、特に種や根

**有毒成分：**アトロピン、スコポラミン、ヒヨスチアミン

**中毒症状：**口渇、血圧・脈拍の上昇、瞳孔散大、  
興奮状態→麻痺状態

※平成12年に札幌市内でチョウセンアサガオ（毒）とモロヘイヤの誤食による食中毒が発生した。

# よく似ている 植物

## アマドコロ



白色の太い根茎は食べると甘いことからアマドコロと呼ばれる。  
茎は角張っていて、葉は互生する。  
葉のつけ根から先の方が緑がかった釣鐘型の白い花を咲かせる。

## ユキザサ



初夏の頃、雪のような白い花をつける。  
若芽の時、すでに小さいつぼみの中にたくさんかかえている。  
葉の両面に毛が密生するので、確かめて摘む必要がある。

## ホウチャクソウ



山地、原野の林の中に生え、高さ 40cm～50cm になる。白い筒状の花を茎の先に 1～3 個つけ、強い苦みと悪臭がある。毒成分を含むので要注意。

## チゴユリ



山林のやや明るい林内に生える多年草で高さ 15 cm～30cm になる。葉の形は楕円形で、茎の先に 1～2 個の白い卵型のつぼみをつける。

## スズラン



草地に生え、初夏に白い鈴型の花を咲かせる。

全草、特に根にコンバラトキシンなどの毒成分を含み、誤食するとおう吐、頭痛、呼吸麻痺を起こし、死亡することもある。



# 代表的



ウド



フキ



エゾノリュウキンカ(ヤチブキ)



チシマザサ(タケノコ)



ミツバ



クサソテツ(コゴミ)



フキノトウ

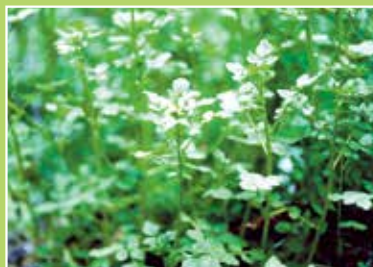
# な 山 菜



スギナ(ツクシ)



タラノキ(タランボ)



オランダガラシ(クレソン)



ハマボウフウ



ヤマドリゼンマイ



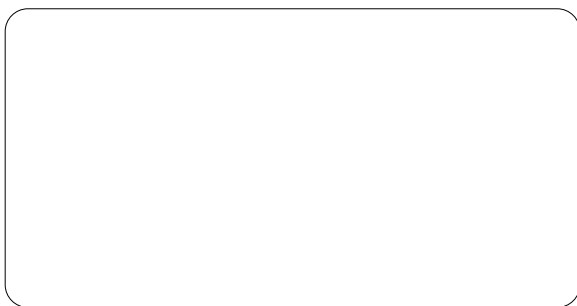
モミジガサ(シドケ)



ワラビ

# 有毒植物による食中毒に 注意しましょう。

食べられる植物の中には、これとよく似た  
有毒植物との区別が大変難しいものがあります。  
山菜と有毒植物が同じ場所に混ざって生えることもある  
ので、調理前にもう一度確認しましょう。



北海道保健福祉部健康安全局食品衛生課  
札幌市中央区北3条西6丁目  
☎011-204-5261

このハンドブックは、札幌市保健所が有毒植物による  
食中毒を予防するために編集したものを、活用させていただきました。

写真提供

姉帯 正樹  
村上 千慶